

悪性リンパ腫の治療後に発症し，再発後に増悪を認めたサルコイドーシスの 1 例

全著者名前

嶋田 有里¹⁾， 稲田 祐也¹⁾， 坂井 俊介¹⁾， 吉村 聡一郎¹⁾， 松浦 弘幸¹⁾， 伊東 友好¹⁾

全著者所属先

1) 関西電力病院 呼吸器内科

要旨

症例は 49 歳女性．入院 66 ヶ月前にびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫と診断した．その後サルコイドーシスと診断，入院 18 ヶ月前に悪性リンパ腫が再発した．入院 1 ヶ月前の FDG-PET で両肺野にびまん性粒状影，肺門・縦隔リンパ節腫大を認め，骨髓生検，気管支鏡，肝生検を施行した．各々の組織の P. acnes モノクローナル抗体による免疫染色で類上皮細胞肉芽腫内に陽性顆粒を認めサルコイドーシスと診断した．悪性リンパ腫の再発後にサルコイドーシスの増悪を認めた 1 例を経験したので報告する．

キーワード：びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 diffuse large B-cell lymphoma, サルコイドーシス Sarcoidosis, 類上皮細胞肉芽腫 Epithelioid cell granuloma, PAB 抗体 PAB antibody

短縮タイトル

悪性リンパ腫の再発後に増悪を認めたサルコイドーシス